

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0270500390		
法人名	株式会社大五舎		
事業所名	グループホームひまわり2		
所在地 (電話番号)	〒037-0061 青森県五所川原市雑田141-7 (電話) 0173-34-5346		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年1月21日	評価確定日	平成22年2月18日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 11月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	冬期6,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月4日現在)

利用者人数	7名	男性	名	女性	7名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人守生会 中村整形外科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>住宅街にある民家を改装した建物で、「地域住民の一人として暮らしていける様に」と事業所独自の理念がある。管理者と職員は具体的なイメージをもって理念を共有されている。入居者一人ひとりの行動や表情を把握しており、思いを打ち明けられるようコミュニケーションの方法も工夫され、信頼関係が築かれている。居間にはソファや個別のテーブルが配置され、一人ひとりが遠慮なく過ごせるようにしており、暖かい家庭的な雰囲気のあるグループホームである。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善課題となった「隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献」に関しては、玄関先に介護相談受付の張り紙をしていることから、相談者が来訪されることがあり、地域包括支援センターや市役所とのパイプ役となるよう改善し、支援している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は反省や日々の振り返りをする機会として、職員全員で行っている。気付きや課題については、日々の申し送りで改善に向けて話し合いがされている。今回の自己評価では課題はなかったが、より質の高いサービスにつなげる為、自己評価について再点検をしていく体制がある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、報告書は構成員全員に渡している。評価の報告は勿論、地域とのかかわり方やグループホームの現状について、報告・意見交換しサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>運営推進会議に家族にも参加していただき、意見を取り入れている。また、面会時に家族が何でも言えるように働きかけている為、要望や苦情は口頭で伝えてもらうことが多いが、苦情への対応で終わりではなく、苦情の発生要因など課題を検討し、質の向上をめざす取り組みがある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、地域行事(花いっぱい運動)や総会に参加し交流を図り、協力体制についても働きかけている。日々の散歩等のふれあいを通じて、近隣の住民にはグループホームについて理解していただいております。行事や防災訓練に参加していただく等、地域との深い関わりを継続していける様に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、地域住民の一員として生活していく内容を盛り込んだ事業所独自の理念がある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや毎月の会議で、理念に添ったケアについて話し合い、実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、地域行事(花いっぱい運動)や総会に参加し交流を図り、協力体制についても働きかけている。日々の散歩等のふれあいを通じて、近隣の住民にはグループホームについて理解していただいており、行事や防災訓練に参加してもらっている。玄関先に介護相談受付けの張り紙をしていることから、相談者が来訪されることがあり、地域包括支援センターや市役所とのパイプ役となるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は反省や日々の振り返りをする機会として、職員全員で行っている。気付きや課題については、日々の申し送りで改善に向けて話し合いがされている為、今回の自己評価では課題はなかった。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、報告書は構成員全員に渡している。評価の報告は勿論、地域とのかかわり方やグループホームの現状について、報告・意見交換しサービス向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談を受けた時やグループホーム内で必要な時は、事業所だけで抱え込まずに、随時市の担当者に連絡しアドバイスをもらい、サービスの質の向上に反映している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者に権利擁護を利用されている方がおり、社会福祉協議会の担当者が毎月訪問する為、職員は誰でも対応出来るようにしている。また、外部や内部の研修を通じて理解を深めている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部・内部研修で学ぶ機会を持っている。毎月のケア会議で精神的虐待の認識を確認し合い、言葉遣いについても検討し職員間で互いに注意している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書に基づいて、理解しやすいように噛み砕いて口頭で説明している。入居後も随時、不安ごとや質問について説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、状況報告のため担当者が手紙を作成し、家族に送付している。小遣い金を預かっている方については出納帳の写しも同封している。また、面会があった際は、状態報告と情報収集を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に家族にも参加していただき、意見を取り入れている。また、面会時に家族が何でも言えるように働きかけている為、要望や苦情は口頭で伝えてもらうことが多く、すぐに対応するよう努めている。玄関には投書箱を設置している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に異動はしない方針で取り組んでいる。離職や採用がある際は、事前に入居者へ説明し不安を与えないように配慮されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりの希望に応じた外部研修への参加を促進している。外部研修終了後は報告書を作成し、内部研修で活用している。採用者については、トレーニングの期間を設け、入居者に負担がかからないようにしている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市で開催のケア会議に出席し、意見交換をしている。また、他グループホームと交流があり行事の際に行き来し、その際に情報交換等し、サービスの向上に役立っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に見学していただいている。入居後に生活スタイルやリズムを崩さないように、家族から情報収集し、支援やケア提供に取り入れている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の下拵えや掃除などを入居者に手伝ってもらい、互いに支え合いながら生活している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で、入居者一人ひとりの行動や表情について把握しており、変化に気付いた時はすぐに声掛けし、思いを打ち明けられるよう配慮されている。コミュニケーションの方法も一人ひとりに合わせて工夫がされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を活用し、担当者がアセスメントをしている。面会時に家族に要望を確認し、カンファレンスでは本人の意向を踏まえて検討がされている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に定期的な見直しをしている。また、状態に応じて医師・医療連携の看護師・家族と話し合い、随時見直しも行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>急な病院受診や、外出の要望がある時は出来る限り対応している。医療連携体制がとられており、看護師が週3回訪問し入居者の健康管理をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医があるが、本人や家族の希望に合わせて、他の医療機関の受診を支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化の対応について家族に説明している。また、終末期を向かえた方については、対応について関係者と早期に話し合いを持ち、同意書を交わしている。終末期の介護計画についても週ごとに見直しがされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録類は一箇所にまとめて管理している。掲示物については表紙をつけて目隠しとなるよう工夫している。入居者の方には、場面場面に応じた言葉掛けが工夫され、誇りを傷つけないよう配慮している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の申し送りが入居者一人ひとりの要望を確認しあい、一人ひとりのペースを大切にしながら支援されている。読書をしたり、ソファに横になったりと思いつきに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い出しや、下拵え、後片付けなど入居者の方と一緒にしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的に週3回の入浴としているが、希望があればいつでも入浴できる体制がとられている。また、入居者の体調に合わせて無理強いせず、時間も好きな時に入浴できるよう支援されている。入浴しない日は足浴を実施している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の片付けは、洗物・食器拭き等それぞれ役割分担しており、皆で行っている。生活歴を活かし、縫い物や編み物が出来る場面作りをしている。本人の希望に応じて習い事(習字)の支援も行っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>食事の買い出しや散歩、日常的な外出などその日の天候や体調に合わせて、随時外出の支援をしている。年2回は遠方への外出を計画し実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、その後は資料を活用して内部研修を実施して、職員全員で理解や認識できるように取り組んでいる。支援の場面においても、拘束にならないかどうか考えながら対応し、会議等で確認の話し合いがされている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。入居者一人での外出に備えて、近隣住民に入居者が一人で見かけたら連絡くれるよう働きかけ、協力してもらっている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画されている避難訓練の際は、消防署から指導をいただいたり、消火活動の実演も行われている。毎月の訓練では、出火場所を変えて想定した訓練が行われている。近所の方も訓練に参加してもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の栄養士が作成した献立を参考にして、昼食は入居者が食べたい物を献立に取り入れて、食事を提供している。入居者の摂食状態に応じて、食事形態の工夫がされている。毎月の体重測定の結果も考慮しながら、健康に配慮した支援がされている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルが整備されており、1年ごとに見直しや更新がされている。また、お茶でのうがいを職員と入居者で実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間にはソファーや個別のテーブルが配置されており、一人ひとりが遠慮なく過ごせるようにしている。玄関や廊下にはさりげなく飾りつけがされており、家庭的な雰囲気がある。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>残存機能や動線を考慮したベッドの配置がされている。また、好みの家具や生活レベルに応じて必要な家電が持ち込まれており、落ちつける空間作りがされている。</p>		

 は、重点項目。